



おそうしきのとき、^{くろ ふく き}どうして黒い服を着るの

^{しろ ふく}白い服から^{くろ ふく}黒い服へ

おそうしきのときなどに着る服を、^{き ふく}喪服といい、^{いろ}色は黒ということになっています。

^{も ふく}喪服の歴史は古く、^{へいあんじだい}平安時代には^{きぞく}貴族が^{はいろ}灰色の喪服を着ていたし、^{えどじだい}江戸時代には^{ぶし}武士が^{くろもん}黒紋つきの^{も ふく}喪服を着ていました。しかし、^{しよみん}ふつうの庶民が^{も ふく}喪服としていたのは、^{めいじじだい}明治時代の^{はじ}初めまでは^{しろ}白でした。

^{しろ}白というのは、^{おと}けがれの^{うな}ないものといわれていたし、^{みぼうじん}夫を失った^{さいこん}未亡人には、^{さいこん}再婚はしないという^{いみ}ちかいの意味もあつたようです。

しかし、^{めいじじだい}明治時代になってから、^{も ふく}喪服が^{くろ}しだいに黒にかわってきました。それには、^{せつ}いろいろな^{ふた}説がありますが、^{ふた}二つほどとりあげてみましょう。

^{めいじ}明治になって、^{せいしき}正式の^{ふくそう}服装は^{くろ}黒の^{もん}5つ紋つきに

^{ひと}一つは、^{めいじ}明治の^{ぶんめいかいか}文明開化のときに、^{こくみん}国民の^{ふくそう}服装を^{とういつ}統一しようという^{うんどう}運動が、^お起こりました。そのとき、^{せいしき}正式の^{ふくそう}服装は、^{くろ}黒の^{もん}5つ紋つきということに決められたのです。そこで、^{も ふく}喪に^{くろ}服するときには、^{も ふく}黒の^き喪服を着るようになったのです。

^{ひと}もう一つは、^{めいじじだい}明治時代の^{たいひょうてき}代表的な^{ぐんじん}軍人だった^{のぎたいしょう}乃木大将が、^しじゅん死（^し主君の^{あと}後を追って^お自殺すること）したとき、^{がいこく}外国からも^{おほ}多くの人たちが^{ひと}葬儀のために^{そうぎ}やってきましたが、^{くろ}たいてい黒の^{も ふく}喪服を着ていました。^{せんしんこく}先進国が^{くろ}黒だからというので、^{にほん}日本もそれにならつたというのです。

このようにして、^{も ふく}いつのまにか、^{くろ}喪服は黒という^{しゅうかん}習慣がついたようです。

（監修・保岡 孝之）

